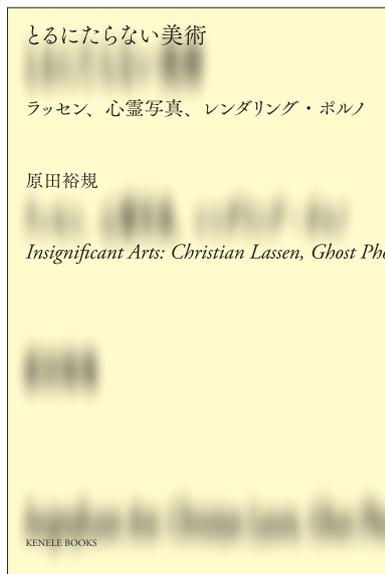


どこまで本気なのか？ 本気で「これ」を評価するのか？

というギリギリに迫る批評は、それ自体が文学となりアートとなる。自分が生きてきた背景と大きな歴史とをクロスさせる原田の旅は、もはや冗談と真面目さの区別がつかない、深い意味での「本気」へと向かっていく。

——千葉雅也 (哲学者・小説家)



とるにたらない美術

ラッセン、心霊写真、レンダリング・ポルノ

原田裕規 [著]

“とるにたらないもの”から、 美術の死角を浮かび上がらせる

クリスチャン・ラッセンをはじめとするインテリアアート、心霊写真、VARやドローンから佐村河内守まで。従来の美術の枠組みの外に置かれてきた数々の作品や事象を取り上げ、それを丹念に論じることを通して美術とは何かを問う。制作と執筆をシームレスにつなげる気鋭のアーティストによる初の美術論集。著者の作品もカラーで掲載。

【本書で取り上げられるキーワード】

クリスチャン・ラッセン／インテリアアート／マリンアート／絵のある生活／ヴェイパーウェイヴ／ボブの絵画教室／ナショナリズム／菊畑茂久馬／生活思想／VAR／ドローン／心霊写真／アンリアルな風景／レンダリング・ポルノ／ダイナミックデスクトップ／松澤宥／フリードリヒ／ハワイ浄土真宗／原爆慰霊碑／アール・ローラン／バルテュス／佐村河内守／広告の時代／つやま自然のふしぎ館／無美術館主義／村松桂／ビジン英語／ラハイナ／グレン・グラント／移民とオバケ／周防大島

■著者プロフィール

原田裕規 (はらだ・ゆうき)

1989年生まれ。アーティスト。

とるにたらないにもかかわらず、社会の中で広く認知されている視覚文化をモチーフに作品を制作している。主な個展に「やっぱり世の中で一番えらいのが人間のようぞいす」(日本ハワイ移民資料館、2023年)、「KAAT アトリウム映像プロジェクト」(KAAT 神奈川芸術劇場、2023年)、「Unreal Ecology」(京都芸術センター、2022年)、「アペルト14 原田裕規 Waiting for」(金沢21世紀美術館、2021年)。編著に『ラッセンとは何だったのか?』(フィルムアート社、2013年)。

書店のみなさまへ

【条件:委託(随時返品可※返品了解:五十嵐)】 鎌谷書店経由で全ての帳合の書店様に納品可能です。返品は各取次店から鎌谷書店経由で弊社に戻ります。自動配本はありません。

2023年11月28日(火) 発売予定

貴店番線印	とるにたらない美術		冊
	ラッセン、心霊写真、レンダリング・ポルノ		
	原田裕規[著]	ISBN 978-4-910315-31-7	
	本体価格: 2,600円+税	四六判変型/仮フランス装/ 352頁	
クワタニ書店扱	ご担当者名		

ご注文 FAX 050-3488-1912

発行: ケンエブックス 発売: クラーケンラボ
東京都千代田区神田猿樂町2-1-14 A&Xビル4F
TEL 03-4246-6231
《担当: ケンエブックス/クラーケンラボ・五十嵐》